

排水ポンプ車は堤内側に貯まった水を河川に排水するもので一言で言いますと消防車のようなものです。違いは概ね以下のようなところです。

水タンクを持たない。

地域の排水を行うために吸い込み用の大きなポンプを持っている。

太いホースで排水する。

つまり、動く排水機場なのです。配備されたのは平成10年4月でその年の6月に阿南市の桑野川に出動し、9月には高知県の国分川に出動しました。記憶に新しいところでは昨年名古屋水害にも出動し活躍しました。勿論、本当は活躍の場がない方が良いでしょうが一旦事が起こればそんな事も言っていられません。今までは堤防越水とか堤防決壊が起これば越水、決壊箇所の修復を行い被害の増大を防ぐだけでしたが、排水ポンプ車の導入により、被災者の方にとって一番の問題である貯まった水をより早く排水する事が可能になりました。ポンプ車の出動は休日、夜間を問わず、原則、全国何処へでも何時でも出動するわけですから、それに備えて毎年、出水期前に操作訓練を行っています。

## 2) 石井防災ステーション

防災ステーションの主な目的としては以下の様な事があげられます。

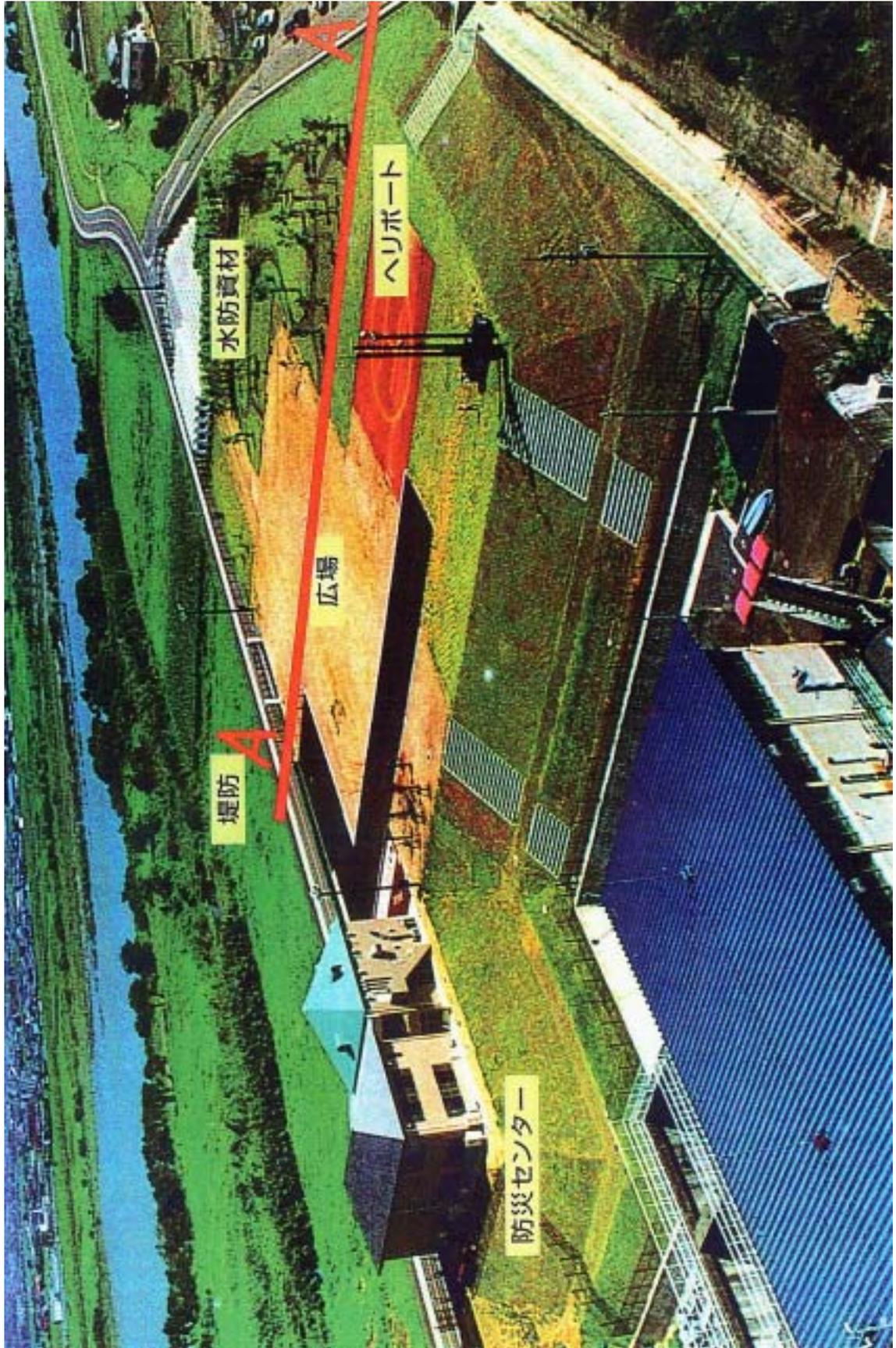
### 重大災害時の現地対策拠点

- ・被災現場の情報収集並びに指示
- ・水防団並びに他事務所等からの応援者の待機場所
- ・災害復旧資材の備蓄場所

### 平常時

- ・地域の憩いの場
- ・災害関連講習会等の会議場所

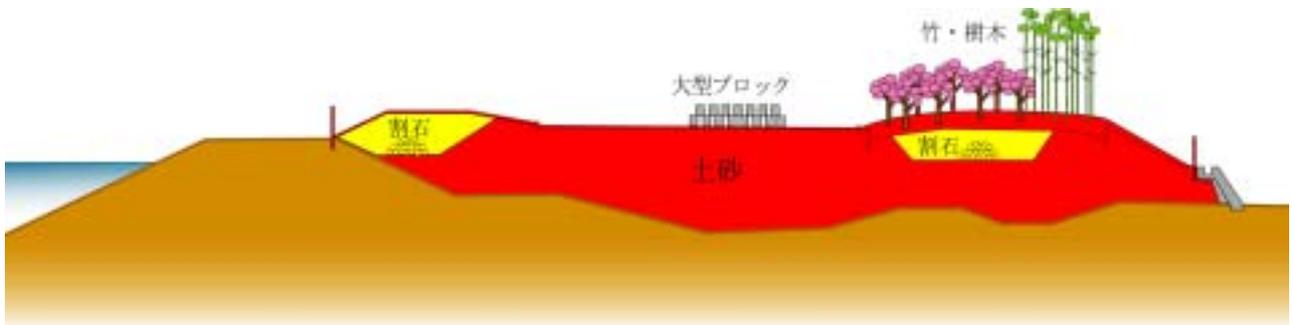
石井町の防災ステーションは国土交通省と石井町が費用を出し合って造った施設です。そのため、平常時は町内の方がゲートボールをしたり料理の講習会を開いたりしています。これが災害時になれば調理室は炊き出しのための調理場となり、広い和室は水防団等の待機場所となります。また、平常時にゲートボールを楽しんでいたグラウンドは災害対策車等の待機場所になったり、水防資材の供給場所となります。



石井防災ステーション パース図



石井防災ステーション平面図



※水防資材の備蓄量

- ・土 砂 ————— 約60,000m<sup>3</sup>
- ・割 石 ————— 約4,000m<sup>3</sup>
- ・大型ブロック — 800個
- ・竹・樹木 ————— 約400本

A - A断面図

以外と知られていないのがグラウンドの構造です。グラウンドには目に見えるものとして水防用備蓄ブロック、水防資材としての竹材、ヘリポート、災害時の足となる自転車などが有りますが実はグラウンド自体が水防資材になっています。その為に堤防とグラウンドの境はシートで仕切られており必要な時には何時でも必要な土砂等が持ち出せる構造になっています。水防資材はこの外にも側帯でも備蓄しており、必要な量が確保します。なお、蛇足ですが石井の防災ステーションのトイレは24時間一般に開放しております。

### 3) 光ファイバー

次に光ファイバー網の整備があります。光ファイバー自体は最近耳にする事が多いかと思いますが特徴としては大量の情報を瞬時に送れる事があります。この特性を活かして、平常時には河川管理の高度化のために利用されます。河川管理の高度化とはリアルタイムでの映像の伝送、水文データの伝送や樋門、排水機場の遠方監視、遠方制御が可能になります。災害時にはこれらの情報が瞬時に確実に得られます。皆さんも経験なさったかと思いますがNTT回線は震度4クラスの地震や重大災害に遭うと通話量の増大などのため回線が繋がらなくなります。これでは災害対応はできません。その為に独立した回線を確保し地域の安全を確保しようとするものです。

#### 光ファイバーケーブル敷設状況

(単位：km)

	整備計画延長	整備済み延長(H12末)	残延長
吉野川右岸	77.7	75.7	2.0
吉野川左岸	77.7	32.6	45.1
旧吉野川	49.6	0	49.6
今切川	23.3	0	23.3